

## 主にあつていつも喜べ

ルカによる福音 3:10-18

（そのとき、群衆はヨハネに、）「わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。

民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた。

### 説教

群衆たちは「では、わたしたちはどうすればよいのですか」とヨハネに尋ねます。するとヨハネは答えます。

- 1.下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ。
- 2.徴税人は規定以上のものは取り立てるな。
- 3.兵士はだれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ。

2・3については正直にやれよ、という勧告と受け取ることができます。1については施せという内容です。ヨハネのもとに集まった群衆がふつうの庶民であれば「互いに助け合えよ、困った時はお互い様だろう」ぐらいの意味にも解釈できます。逆に支配者層であれば心にグサツときた人もいたでしょう。いずれにしても1から3は実現可能な薦めです。難しいことですが誰でもやってやれないことはありません。

後半部分はヨハネが洗礼について語っています。わたしは水で洗礼をするけれど「わたしより優れた方」は「聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」といいます。「聖霊と火の洗礼」とはなにか、ヨハネの証言だけではわかりません。「わたしより優れた方」はイエスのことで間違いありません。でも「聖霊と火の洗礼」はどのようなものなのか、イエスが授けたのでしょうか。でもイエスは洗礼をおこなったとは福音書は証言していません。そこでキリスト教の中にも洗礼の解釈をめぐるいろいろな考えがあり、「これが洗礼だ」という形では統一されていません。ただ、ヨハネ自身が語っているように水の洗礼ではない洗礼がある。そこからヨハネが薦める実現可能な教え（ヨハネのいう悔い改めの実）だけではない「優れた方」の教え（悔い改め）がある、ということが想像できます。ヨハネの薦めをとおしてみると、改めてイエスを信仰するということの意味、わたしたちの想像をはるかに超えた方を信じる意味が浮かび上がります。

さて、きょうは待降節第三主日です。伝統的に「喜びの主日」と言われてきました。

**主にあっていつも喜べ。重ねて言う、喜べ。主は近づいておられる。**

(フィリピの信徒への手紙 4:4b)

イエス・キリストの福音にふれ、それを信じることができる、それこそが喜びの中の喜び、主にあっての喜びです。イエスの降誕日を待つわたしたちは、福音を信じ、神の国を夢見て、喜びの中の喜びのうちにあってイエス・キリストを待ち望みましょう。

-----